



EQUIOS

User Report : 株式会社ダイヤモンド・グラフィック社

TrueflowからEQUIOSへのスムーズなバージョンアップで 労働時間、待ち時間の大幅な削減を実現

EQUIOSによる在版データ管理で出版印刷の「小ロット・短納期」も解決

出版印刷を中心に手掛けるダイヤモンド・グラフィック社（杉山禎一社長、東京都千代田区）。商業印刷同様に短納期・小ロット化が進む出版業界でEQUIOSはどのような役割を果たしているのか。同社クリエイティブ事業本部の赤羽正史本部長、同副本部長でDTPコンテンツ部部長の塚本洋一氏、DTPコンテンツ部副部長の竹内正徳氏に話を聞いた。



クリエイティブ事業本部 本部長
赤羽 正史 氏



クリエイティブ事業本部 副本部長
兼 DTPコンテンツ部 部長
塚本 洋一 氏



DTPコンテンツ部 副部長
竹内 正徳 氏

継続性、可変性、最新DTPへの 対応がポイントに

ダイヤモンド・グラフィック社は大手ビジネス書出版社であるダイヤモンド社の制作・印刷部門をルーツとし、1972年に分離独立し設立された。現在は、印刷機を持たず、印刷物、デジタルメディアの企画制作、システム開発、各種制作のコンサルティングを主に、ダイヤモンド社の制作部門としての実績とノウハウを生かしながら、企画、印刷から納品までの一貫したサービスを提供する。近年では電子書籍サービスや制作管理システムの開発にも注力している。さらに、ダイヤモンド社や関連会社以外の出版社、大学、専門学校などの教育機関や個人、一般企業へと取引先を広げている。

このように事業領域が広がる中、プリプレス部門では全ての案件を処理でき、より

効率化できるワークフローが必要となっていた。

赤羽本部長は「書籍では『重版』があるので、資産ともいえる在版データが、次のシステムでどれだけ対応できるかが重要になる。新システムに変えたら不備があった、では許されない。他社のワークフローももちろん検討したが、安定感を考えるなら『EQUIOS』が一番だろうと判断した」と語る。

「無料で手に入るコンテンツがあふれている現在、『お金を出して買ってもらうにはどうすればいいか』、『情報をきちんと伝えたい』と考えている編集者の『出版物に個性を出したい』という思いに応えなかった」

塚本副本部長がこう語るように、出版業界が厳しいといわれる中、出版社は少しでも売り上げにつなげようと出版物の個性を求め始めている。そのため、書籍の付加価値を高めるためデザイン性の高い装丁

が増え、既存の書籍面付けのフォーマットに収まらないデザインも増えている。

しかし、そのようなデザインの場合、面付けに非常に多くの手間や時間がかかってしまう。

その点、EQUIOSは面付け機能を搭載しており、変則的な台割りもテンプレートで簡単に対応できる。

また、データ入稿が一般的になった今、クラウドで頻繁にバージョンアップするDTPソフトへの対応もポイントだ。

「これまでのパッケージ型ソフトは、数年に一度のバージョンアップで、こちらのシステムもその間に修正、対応ができた。しかし、現在一般的なクラウド型ソフトでは『コンシューマー』向けに、前のバージョンの不具合を直すよりも新しいバージョンにすることで対応する。そうなるTrueflowのままでは、サポート終了により、対応できなくなる可能性があった」と赤羽本部長は指摘する。

出版文化を支える「EQUIOS」

同社が手掛ける書籍はビジネス書を中心に、『ドラッカーシリーズ』や『トヨタ生産方式』などのロングテールで販売されるものが多いが、一方で、うまく時流に乗り、瞬間的に売れていく書籍もある。そういった書籍で一番の問題となるのは、重版のタイミングだ。

書籍が欲しいときや広告を打つタイミングで書店になれば、機会損失となり、また、需要のピークが過ぎてから書店に並ぶことになれば、在庫のムダを抱えることになる。現在では、印刷技術やPOSレジのシステムが発展し、そういった事態が少なくなっているが、リアル書店にはネット書店という強力なライバルがある。リアルの書店になれば、読者はすぐネット書店へと流れてしまう。

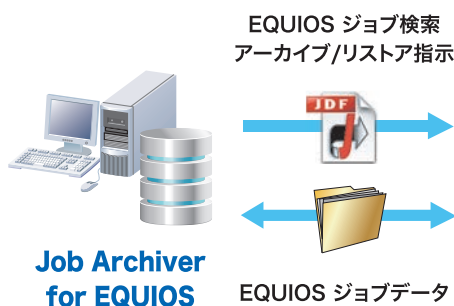
一方、書籍流通での返品は出版社にとって大きな問題となっており、データから予測される適切な部数を、いかに素早く書店に届けられるかが重要となっている。「短納期・小ロット」の課題は商業印刷だけのものではないのだ。

EQUIOSと同時に導入された「Job Archiver for EQUIOS」は、ジョブごとに登録されたキーワードで検索することができ、同社はISBNコードで在版データを管理している。ISBNコードを入力すれば、すぐに在版データを呼び出し、EQUIOSを通じて即座に重版対応できる。

「書籍は初版だけで利益を出すのは難しく、重版をかけることで利益を生み出していく。タイミングが非常に重要で、重版の即応性は大きなポイントだ」と塚本副本部長は語る。



運用フロー



EQUIOS導入で 残業時間を50%削減

TrueflowからEQUIOSへの切り替えについて、竹内副部長は「正直なところ、苦勞したことはほとんどなかった。ほぼそのままの操作性で、スムーズに使用できている」と語る。

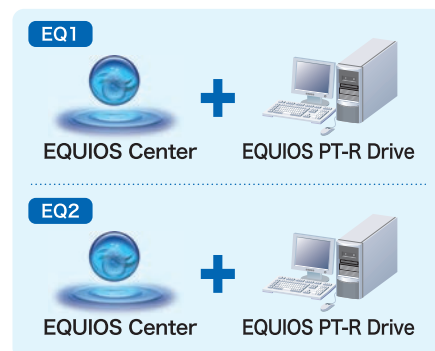
実際、メディアテクノロジー ジャパンとの導入前の綿密な打ち合わせやエムティサービス東日本の全面的なサポートで、導入後、1、2週間で運用を開始できている。

切り替えの際に、在版データが読み込めない、エラーが出た、などのトラブルは全くなく、2カ月経過した現在、新規データの80%以上、データ全体では50%がEQUIOSで運用されている。データ全体での運用が50%なのは在版データをバックアップしておくためだ。もちろん、これらのデータも、徐々にEQUIOSでの運用へと切り替えている。

また、協力会社がTrueflowを使っていたとしても、データのやりとりには問題は発生していないという。

DTPソフトの進化により、作成されたデータはますます複雑になり、1ページ当たりのデータも大きくなっている。

同社で扱う書籍では特に、旅行ガイドのような写真データの多い書籍はこれまで、夕方の責了後、インクジェットのプルーフを出すために夜中近くまでかかることが多く、特別シフトを組んで対応することも



あった。しかし、導入後は、特別シフトを組むこともなく、ほぼ時間どおりに終わっているという。

「EQUIOS導入で仕事の進行が読みやすくなったため、残業時間を50%以上削減できている」（赤羽本部長）

赤羽本部長は「フロント側のソフトは日々更新されている。それにメーカーさんがどれだけ付いていけているか、また、われわれがどういった準備をしたらいいのか提案していただきたい。その結果、お客様に、より満足していただけるサービスを充実させていくこともできる」と要望する。

そして「社内のシステムを全て連携させて経営から生産まで一貫したシステムを構築し、付加価値創出に注力していきたい」と先を見据える。



株式会社ダイヤモンド・グラフィック社

住 所 本社 東京都千代田区二番町11-19
興和二番町ビル6F

代 表 者 代表取締役社長 杉山 禎一

設 立 1972年9月

従業員数 80人

<http://www.diamond-gra.co.jp/>

出典：「印刷新報 2018年2月1日号」

SCREEN

株式会社メディアテクノロジー ジャパン

〒135-0044 東京都江東区越中島一丁目1-1 ヤマタネ深川1号館
<http://www.mtjn.co.jp/>

東京支店／03(5621)8266(代) 大阪支店／06(6531)0333(代) 名古屋支店／052(218)6400(代)
福岡支店／092(436)7081(代) 北海道営業所／011(726)0707(代) 東北営業所／022(224)1741(代)
新潟営業所／025(241)0112(代) 静岡営業所／054(281)0955(代) 長野営業所／026(224)5770(代)
金沢営業所／076(292)2345(代) 京都営業所／075(326)1350(代) 中国営業所／082(264)6451(代)
四国営業所／087(837)8151(代)